



能登やさしいこめづくり情報

田植え後
～中干し編

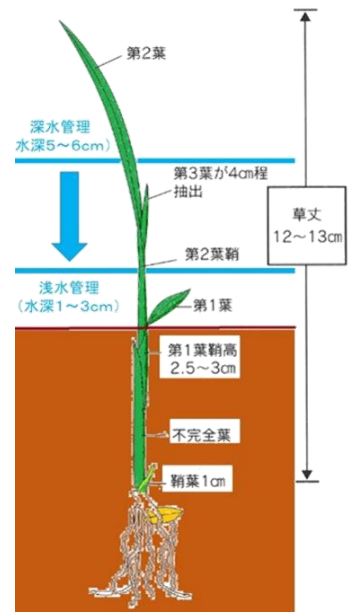
**田植え後1か月经過したら、
中干し開始で品質向上！！**

令和8年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
JAはく



JAはくい 公式LINE
👉 能登米産地はくから

田植時の良い苗



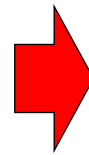
1 田植え後の水管理

- 田植え～5日後(活着期): **深水管理(水深5～6cm)**
 - 活着前は寒さや強風に弱いので、深水管理で苗を守りましょう。
 - 通常、遅くとも田植え後5日程度で活着する。
 - 活着後も、除草剤散布後7日間は深水管理(水深5～6cm)とする。
- 活着後(※除草剤散布後7日間は除く): **浅水管理(水深1～3cm)**
 - 活着後は基本的に浅水管理を行い、水温や地温を上がりやすくし、**早期に分げつを発生**させましょう。
 - 早い時期に発生する分げつは登熟能力の高い「有効分げつ」となりやすく、遅い時期に発生する分げつは「無効分げつ」「弱小分げつ」で、登熟能力が低く、くず米となりやすい。**
- 田干し
 - 中干しまで田干しを2～3回行い、**ガス抜きし、根の張りをよく**しましょう。
 - ガスが多く発生する圃場では、根が傷み養分を十分に吸収できない。
 - 有機物を施用した圃場や湿田は、5月中旬以降地温の上昇に伴い、有機物の分解が進みガスが発生しやすくなるので、特に注意が必要。

2 適期中干しの実施

中干しの効果

- ◇ **無駄な分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。**
- ◇ **秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。**
- ◇ **過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。**
- ◇ **田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。**



**乳白粒(白未熟粒)や
くず米の発生減少**

- ✓ **田植え後1か月に中干し開始(過剰生育を抑えて乳白粒・くず米の発生を抑える)**
- ✓ **中干し期間は約1か月**
- ✓ **溝切りの実施(中干しの効果を高める・通水管理が容易になる)**

◆中干し開始・終了時期の目安

品種	開始時期		終了時期	開始時期判断の注意点
	1株当たり茎数	平年		
早生品種	16本	6/7頃	6/25頃	①田植え後1か月、または、 ②左記の茎数に達した時期の いずれか早い方にあわせて実施し、 額縁や滞水する箇所には溝切りを 実施してください
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/5頃	
ひやくまん穀	14本	6/5頃	7/15頃	

◆中干しの方法

- ① 一度に強く干し上げると根を痛めるため、徐々に 田干しの期間を長くする
- ② 田面に図の小ヒビが入る程度とする
- ③ 3～5日程度の田干しと1日の通水を繰り返す



↑中干し開始の目安の株

↓小ヒビの程度



(参考)中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間	注意点
一般田	田面に小さなヒビが入り軽く足跡が付く程度	※上記のとおり	葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続してください。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め(大きなヒビを入れない程度)	一般田よりやや早めに開始、やや遅めに終了	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

3 溝切り作業

溝切りの効果

- ◇ 迅速な通排水ができ、中干しの効果が高まります。
- ◇ 登熟期に迅速なかん水ができ、飽水管理を手助けします。

◆目指すは「秋まで残るきれいな溝」!

- ① 額縁及び10条に1本の割合で実施
- ② 溝と溝、溝と排水口は、しっかりと連結
- ③ 田面をある程度固く(落水2～3日後)してから溝を切り、6月中旬頃に同じところを再度切り直す

溝と溝を連結!



4 ケイ酸の施用

- ✓ 受光体勢が良くなり、登熟が向上
- ✓ 稲体が強固になり、病害虫抵抗性や耐倒伏性が向上

施用時期	肥料名	施用量
6月中旬 ～下旬	PK けいさん (0-13-11 ケイ酸 17)	40 kg/10a
	エスアイ加里 カリ投げくん	4 kg/10a ※5cm以上の湛水で施用

※「BB けい酸パワー・コシー発くん」(ケイ酸 12%配合)以外の肥料(有機入り能登コシー発、新早生一発くん、ひやくまん穀一発くん等)を使用した場合は、リン酸やカリ、ケイ酸が不足するので、必ず施用しましょう。

5 中干し期間中の除草

◆よくある質問

- Q.中干し期間中雑草が目立ってきたが、除草剤と中干しどっちを優先すればいいか?
- A.除草剤は湛水散布の場合、中干し開始前に判断・散布し、中干しを実施することが基本。
中干し期間中に雑草が目立った場合、一時的に水を落とし、落水散布の剤を施用する。

～農作業中の熱中症に気を付けましょう～

暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。

こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など、対策を行い、日中の暑さに備えましょう!

